

全体的な計画

保育理念		「やる気」と「思いやり」を育てる		保育方針		・健康で活動好きな子どもを育てる ・思ったことを発表し、実現できる子どもを育てる ・「ありがとう」「ごめんなさい」が素直に言える子どもを育てる		保育目標		本園は、良い環境の中で幼児の心身の調和的発達をはかり、健全な心身の基礎を育成することを目標とする					
社会的責任			人権尊重			説明責任			情報保護			苦情処理・解決			
○乳幼児を預かる施設として、子育て家庭や地域に対し、こども園の役割を確実に果たす		○保育士等は、保育の営みが子どもの人権を守るために法的、制度的に裏付けられている事を認識し理解する		○保護者や地域社会と連携を図り、風通しのよい運営をすることで、一方的な「説明」ではなく、分かりやすい広報的な「説明」をする		○保育にあたり、知り得た子どもや保護者に関する情報は、正当な理由なく漏らしてはならない(児童福祉法第16条の22)		○苦情解決責任者である施設長の下に苦情解決担当者を決め、書面における体制を整備する ○第三者委員を設置する ○職員で共通理解を図る							
年齢別保育目標	0歳児	一人ひとりの生活のリズムを整え、安心して過ごす				3歳児	社会性が育ち、異年齢との生活や遊びを楽しむ								
	1歳児	身の回りのことに興味を持ち、いろいろな遊びを楽しむ				4歳児	友だちとのつながりを広げ、ルールを守って行動する								
	2歳児	好きな遊びを楽しみながら、友だちと関わりを楽しむ				5歳児	就学への期待や自信を持ち、目標に向かって意欲的に行動する								
保育の内容															
項目		0歳児		項目		1歳児		2歳児		3歳児		4歳児		5歳児	
養護	生命の保持	・保健的で安全な環境を作り、常に体の状態を細かく観察し、一人ひとりが快適に過ごせるように授乳や睡眠などの生活リズムを整えていく		生命の保持	・安心できる保育士との関係のもとで、一人ひとりの生理的欲求が十分に満たされるようにする		・一人ひとりの生活リズムや生理的欲求を満たし、安全で安心できる環境の中で、快適に生活できるようにする		・一人ひとりの健康状態を観察、把握し安全で快適に過ごせるようにする		・一人ひとりの健康状態や発達状態を把握し、子ども自身も体の異常の際は、知らせることができるようにする		・基本的な生活習慣が身に付き、自分ができたことに自信や満足感を持たせる		
	情緒の安定	・一人ひとりの欲求を大切に受け止め、保育士との情緒的な結びつきを強めながら人間関係の基礎を作る		情緒の安定	・自我の芽生えを喜び、受け止めながらも、保育士や周りの大人への信頼感が育まれるようにする		・子どもたちの欲求、言葉を受け止め、安定した信頼関係のもとで、少しずつ自分の気持ちを表現できるようにする		・自分の気持ちを伝えるだけでなく、相手の思いを感じることの大切さを知らせる		・子どもの感性を豊かにするために受け止めながら、友だち同士ややり取りを重ね、お互いの良さを認め、集団の中で一人ひとりの良さを活かしていく		・見たこと聞いたこと感じたこと考えたことを、言葉で伝えることができるようにする		
	健やかに伸び伸びと育つ	・身体機能が育ち、快適な環境に心地よさを感じる ・食事、睡眠の生活リズムの感覚が芽生える		健康	・散歩や外気浴を積極的にを行い、十分に体を動かす ・手洗いや衣服の着脱へ興味を持ち、保育士と一緒に取り組み自信を持つ		・保育士に見守られる中で、基本的な生活習慣が身に付き、自分のことは自分でしようとする		・生活に必要な基本的な生活習慣や身の回りのことを、自分でやろうとする		・健康に必要な習慣を身に付け、安全に留意して行動できるようにする		・清潔と予防との関係が分かり、体や身の回りを清潔にし、健康維持の習慣を身に付ける		
	身近な人と気持ちが通じ合う	・一人ひとりの欲求を大切に受け止め、保育士との情緒的な結びつきを強めながら人間関係の基礎を作る		人間関係	・保育士や友だちに関心を持ち、親しみを覚へて一緒に過ごすことの喜びを感じる		・友だちとの関わりを通して、簡単な約束事があることを知り、一緒に遊んだり同じ行動をして楽しむ		・保育士や友だちとの安定した関係の中で、関わりながら共に過ごすことの喜びを味わう		・同年齢や異年齢の友だちなど様々な友だちと関わっていく中で、思いやりや親しみを待つ		・グループの生活や遊びの中で、年長児としての自覚を持ち、友だちや年下の子を気遣い、思いやりの気持ちを待つ		
教育 三つの視点	身近なものと関わり感性が育つ	・身の回りのものに親しみ、様々なものに興味や関心を持つ ・見る、触れる、探索するなど身近な環境に自ら関わろうとする		環境	・安全で活動しやすい環境の中で、身近な自然と触れ、面白さ、心地よさなど十分に味わい、行動範囲を広げる		・簡単な造形遊びをしながら、いろいろな素材、教材に触れる ・身の回りの車や物に触れ、興味を持つ		・身近な環境に興味や関心を持ち、関わって遊ぶ		・身近な環境に興味や関心を持ち、関わっていく中で、遊びや生活に取り入れようとする		・日常生活の中で数や量や図形、簡単な図解や文字に関心を持つ		
	身近なものと関わり感性が育つ	・身の回りのものに親しみ、様々なものに興味や関心を持つ ・見る、触れる、探索するなど身近な環境に自ら関わろうとする		言語	・日常生活に必要な言葉が分かり、使う楽しみを味わう ・興味のある絵本を保育士と一緒に繰り返し読み、喜びを感じる		・自分のしたいこととしてほしいことを、言葉で表す ・遊びの中で言葉を使うことや、言葉をお互いに伝える喜びを感じる		・保育士や友だちとの会話や、言葉に興味を持ち、親しみをもち話しをする		・自分の経験したことや思っていることを話し、言葉で表す		・保育士や友だちの話をよく聞いて内容を理解したり、自分の気持ちを伝えようとする		
	身近なものと関わり感性が育つ	・身の回りのものに親しみ、様々なものに興味や関心を持つ ・見る、触れる、探索するなど身近な環境に自ら関わろうとする		表現	・自分の意志や欲求を言葉や動作で相手に伝える ・リズムに合わせて体を動かしたり、保育士と一緒に叩いたり手遊びをしたりする		・歌を唄ったり、音楽に合わせて体を動かしたりすることを喜び ・興味のあることや経験したことを、生活や遊びの中で表現する		・見たり聞いたり感じたりしたことを言葉で表現したり、イメージを広げていく楽しさを味わう		・身近な素材や用具を使い、工夫しながら様々な表現遊びを楽しみ、感性を育てる ・音楽に親しみ、友だちと唄ったり合奏したりして、一つのを作り上げる楽しさを味わう		・絵本や物語を聞き、その中で言葉の面白さ楽しさなどその心情に触れ、楽しんで遊ぶ		
	食を営む力の基礎	・特定の保育士との信頼関係のもとで、一人ひとりに応じた授乳を行い、離乳を進めて健やかな発育、発達を促す		食を営む力の基礎	・いろいろな食べ物を見る、触る、噛んで味わう経験を通して、自分で進んで食べようとする		・食生活に必要な、基本的な習慣や態度に関心を持つ		・食事に必要な基本的な習慣や態度を身に付ける ・手の取扱いを経験する ・カレー作りの楽しさを知る		・食事のマナーを守り、楽しく食べる ・いろいろな食材や栄養に興味を持ち、何でも食べてみようとする ・芋の収穫を経験する ・カレー作りの楽しさを知る		・食事における基本的な習慣やマナーを身に付ける ・食事と体の関係に興味や関心を持ち、栄養バランスの大切さを知る ・芋の収穫、収穫を経験する ・カレー作りの楽しさを知る		
健康管理	・身体測定(毎月) ・内科、歯科健診(年2回) ・尿検査(年2回) ・ぎょう虫検査(年1回) ・アレルギー対応														
環境・衛生管理	施設内外の設備、用具等の消毒 ・安全管理及び自主点検の実施 ・全職員の検便 ・全職員の健康診断														
安全対策・事故防止	・毎月の避難訓練(火災、地震、不審者対応) ・消防署査察、消防点検、消火訓練 ・救命講習会(AED)														
保護者への支援	・保育参観、クラス懇談会 ・子育て支援、相談														
地域等への支援	・実習生、職場体験、ボランティアなどの受け入れ														
地域行事への参加	・町内の祭り参加 ・施設イベントへの参加														
研修計画	保育所保育指針に対応した園外、園内研修 ・研修会報告会 ・園内研修(保育内容など)														
小学校との連携	・1年生との交流会 ・幼保小連絡会議 ・小学校参観日出席 ・幼児運携型認定こども園児指導要録の送付														
自己評価	保育士の評価(自己評価チェックリストの実施) ・全体的な計画、事業計画の策定 ・基本理念、保育方針、全体的な計画の理解														